

# KiKiの広場

2021年 1月 1日

cafe NO.123  
KiKi



## あけましておめでとうございます！

2021年の干支は「丑」ですが、十干十二支で表すと、「辛丑（かのとうし）」です。「辛」は痛みを伴う幕引き、「丑」は殻を破ろうとする命の息吹、そして希望とされています。辛いことが多ければ多いほど、大きな希望が芽生える年になることを指し示しているそうです。辛いことは、昨年世界中で十分過ぎるほど味わいました。それは現在も続いています。「丑」の持っている力を信じて、未来は明るいと感じて、今年はいよいよ心を強く持ち、そして穏やかな日常を願って、頑張っていきたいと思えます。みなさま、令和3年も、どうぞよろしくお願ひいたします。

### 1月の予定

休館日	12日(火)
定休日	毎土・日・月曜日
年末年始休み	26日(土)～1月4日(月)

### 「今月のケーキ」…「りんごのタルト」 350円



カットの大きいりんごをふんだんに使い、シャキシャキ感たっぷりです。タルト生地も香ばしく仕上がっており、甘さをひかえたさわやかなタルトです。

### 今月のお気に入り…「新しい年を迎えて読みたい絵本」

～「十二支のお節料理」「じっちょりんのふゆのみち」「しめかざり」「あけましておめでとう」「おもちぶとん」「かさじぞう」～



「十二支のお節料理」の作者は、落語絵本の川端誠さんです。十二支たちが新年を迎える為の準備をします。大晦日にそれぞれあたらされた係を一生懸命頑張る姿も楽しいですが、一夜明けてお正月を迎えた場面は、シーンと静まり返って神聖で身が引き締まる思いになります。お正月にぴったりの絵本です。

「じっちょりんのふゆのみち」は、じっちょりんシリーズの冬のお話です。こんな世界がもしかしたら、すぐそばにあるかと思うとワクワクします。全て違う形の雪の結晶が舞い降りてくるシーン、とってもきれいです。じっちょりんの目線になってこんな風に自然を感じてみたいなあと思いました。



### 今月の本棚…「今年の干支 うしが出てくる絵本」

～「わらのうし」「おりこうなアニカ」「うし」「モーモーまきばのおきゃくさん」「はなのすきなうし」「うんがにおちたうし」など～



「わらのうし」は、ウクライナの昔ばなしです。訳は、内田莉紗子さん。日本には馴染みのないタールがお話の鍵になります。奇想天外な展開が不思議で面白くて、昔ばなしの力を感じます。大きくて迫力のある色彩の美しい絵にも惹き込まれます。「おりこうなアニカ」は、エルサ・ベスコフ作です。アニカという名前の小さな女の子が、お母さんのお手伝いを一生懸命するお話です。絵本いっぱい可愛らしさと優しさが散りばめられています。ベスコフによく登場する小人が出て来たり、素朴ですが楽しくて心が温かくなるお話です。



### ほっとフレイク

「丑」について…神社には、色々な動物をかたどった像が置かれていますが、その中には牛もあります。境内で座った牛「臥牛（がぎゅう）」をよく見ますが、「撫でると願いが叶う」とも言われ、「撫で牛」「ねがい牛」などとも呼ばれています。神社に牛の像がある理由や意味は、菅原道真公に関係しているそうです。防府天満宮の節分祭では、生きた子牛を神くじで当てるという全国的にも珍しいお祭り「牛替神事」が行われています。祀られている道真公は、丑年・丑の日・丑の刻生まれで、亡くなったのも丑年・丑の日・丑の刻という説や、道真公が日頃からたいそう牛をかわいがっていたなど諸説ありますが、いずれにしても道真公と牛との深い繋がりから、牛は「天神さまの使い」と言われています。道真公は「学問の神様」でもあります。受験生のみなさんに嬉しい春がきますように！